

再評価結果（平成16年度 事業継続 箇所）

担 当 課：国道・防災課

担当課長名：中島 威夫

| | | | | | |
|---|--|---|---|--------------|------------------|
| 事業名 | 一般国道10号 <small>かごしまきた</small> 鹿児島北バイパス | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 国土交通省 九州地方整備局 |
| 起終点 | 自：鹿児島県鹿児島市吉野町花倉 至：鹿児島県鹿児島市小川町 | 延長 | 約4km | | |
| 事業概要 | | | | | |
| <p>一般国道10号は、北九州市を起点として、大分・宮崎を經由し、鹿児島市に至る延長約450kmの東九州を縦断する重要な幹線道路である。</p> <p>鹿児島北バイパスは、一般国道10号の終点付近に位置し、鹿児島市吉野町花倉から同市小川町に至る、延長約4kmのバイパスである。既に、終点側の1.2kmは、暫定2車線で供用している。</p> | | | | | |
| 昭和50年度 事業化 | 昭和56年度 都市計画決定 | 昭和56年度 用地着手 | 平成4年度 工事着手 | | |
| 全体事業費 | | 事業進捗率 | | 供用済延長 | |
| (海水浴場～花倉川ボックス案) | 379億円 | | 21% | 1.2km | |
| (海水浴場～磯川ボックス案) | 319億円 | | 25% | 1.2km | |
| 計画交通量 | | 40,900～44,700 台/日 | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C | 総費用 (残事業)/(事業全体) | 総便益 (残事業)/(事業全体) | 基準年 | |
| (海水浴場～花倉川ボックス案) | (事業全体) 3.2 (残事業) 2.4 | 243 / 359 億円 事業費：230/345億円 維持管理費：13/13 億円 | 576 / 1,156 億円 走行時間短縮便益：561/1,089億円 走行費用減少便益：12/32 億円 交通事故減少便益：3/36 億円 | 平成15年 | |
| (海水浴場～磯川ボックス案) | (事業全体) 3.7 (残事業) 2.9 | 197 / 312 億円 事業費：183/299億円 維持管理費：13/13 億円 | 576 / 1,156 億円 走行時間短縮便益：561/1,089億円 走行費用減少便益：12/32 億円 交通事故減少便益：3/36 億円 | 平成15年 | |
| 事業の効果等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化の支援（重要港湾鹿児島港へアクセス向上が見込まれる） ・生活環境の改善・保全（夜間騒音要請限度を超過している磯地区の騒音レベル低下が見込まれる） <p style="text-align: right;">他8項目に該当</p> | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道10号は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、鹿児島県の鹿児島県開発促進協議会より毎年早期整備の要望を受けている。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国道10号の交通渋滞はますます深刻化している。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現在までに終点側の1.2kmを暫定2車線で供用している。また、残区間については、PI方式を導入し、ルート及び道路構造についての提言をうけた。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、PIの提言等をもとに、残区間についても引き続き事業を推進していく。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・起点側の約3kmは、コスト縮減を踏まえた、ルート及び道路構造の検討を行っているところ。 | | | | | |
| 対応方針 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・以上の状況を判断すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | |

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。